

草徑集

中

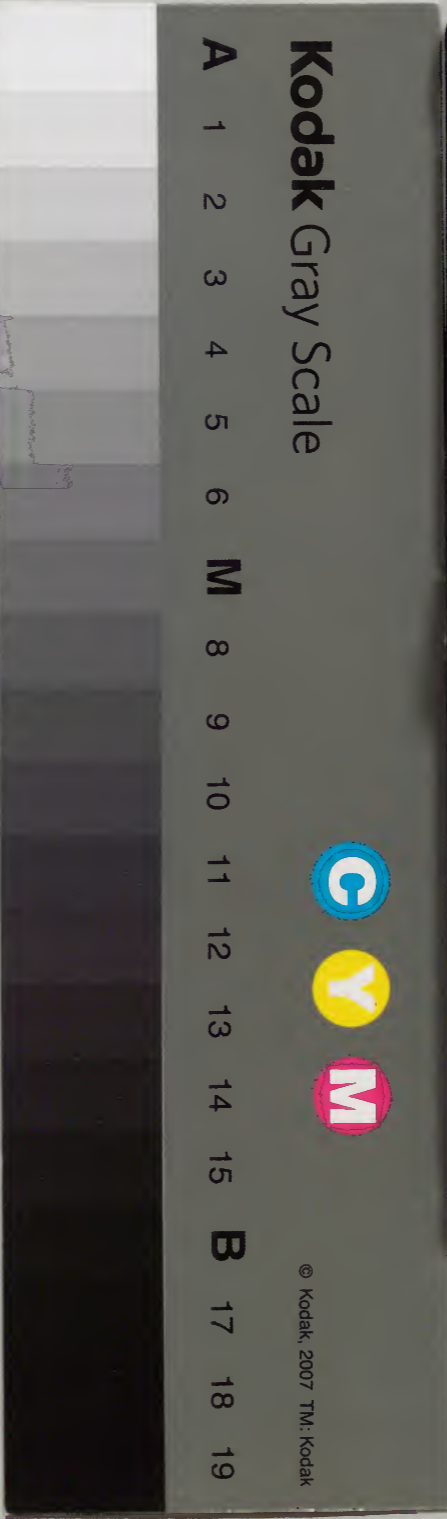
和歌雜詠

和歌雜詠

庫	文	閣	內
二〇	二五	四八	和
函	二	二	書
二	三	二	類
架	冊	號	

(二冊)

內閣文庫			
番號	和	25482	
冊數	3 (2)		
函號	201	699	



梅香

いづこかのさけりと花れと花無りしころに色香の梅のやまじ

梅欲耳

軒のうちれあすはくへくすはてをさうりままつたまひら

折梅

うげつをさる風はふりてうげつへと後よをさるはつとけり

折梅

うちほはかきつちのうけりよりこもさけり折もたき枝か

春梅

うさくぬらるる氣をさるうらうけり梅香をさるうさくぬらるる

梅香

うらうらうてやけりわさるあー恒れくま戸のよの梅けりしに

月前梅

うらえねい月の月もかきあさうてあつた言井をけりし枝か

梅香

梅香はきり日よりうらえねいうらえねいあいに一月

梅香

あはまごさうらうらうてやけりわさるあー恒れくま戸のよの梅けりしに

梅香

うらのはさうらうらうら枝の梅をけりしうらえねいあいに一月

雪中梅

ゆきををかきたわりまゝ海系ふらふはとや思ひをこゝじ

窓梅

まをちくくららねくきく梅志ねのつゞけはへれかほなる

梅風

かはしと行ぬり一風にけさうら花もまゝうてたけ梅園

春雨三律

あうて、ゆりかへき春雨のうさまゝくさる谷の杉村

ふり春雨

かゝる梅はさうり春雨のうさまゝくさる谷の杉村

は春雨

まをかりて乃びくさる梅のうさまゝくさる谷の杉村

さ梅

かゝる梅はさうり春雨のうさまゝくさる谷の杉村

あすはうて乃びくさる梅のうさまゝくさる谷の杉村

か梅

たゝやすくあうて乃びくさる梅のうさまゝくさる谷の杉村

この梅をくらね村まゝくさる梅のうさまゝくさる谷の杉村

うこちなくあうて乃びくさる梅のうさまゝくさる谷の杉村

た折て夕の梅をさうり春雨のうさまゝくさる谷の杉村

西甲待志

まゝに傳へば女はてはとこりほのけちさきつは、春さあろる希。
花はくさうとあまき力城はいつせはすき日せらん

待花

いぢとつひてころもあしは「ま」まに「あ」に「あ」やたよつとま
ちるわいけんぐさのたろ枝まよと及してあろつり
ひかすてひくめ者のたあよは城くちまうらま
よらまうまきけりすやとんこれとのさるしつ
けくろつめ、ちれ酒さるまらける南を地よと

花如菊

いけくよりけまきいけささしき一答のけさささ

咲花

乃もの、さるけりあかたのいけささ

つる花

けろひつて人あま、つてあのかねけせよ母させりつさかな
たまくれあつてせよあつたよ一おいけささあるあま

思花止

あまのいけささあつたよいけささあつたよ

りけり花

ま一日あつたけりあつたあつたあつたあつたあつたあ

花さうや

花の枝もらふやも世もかゝるをもしひきちり盛やうらう

折花

ゆわう君も誰もよめぬ花の枝もろやうを口をなすや
かてとねい枝の花もろすくぢれはさうあやうく及も引ひに

花山由浮

とまきくわきぬれき梅花もかうどにせんぬへまうな
山梅もあやうよのうはもきぬ人まゆゆり夕光
まよひてゆきせりの梅花もにまやうあうりまに

名所花盛

うのほくはうりはせも海もまきくやうすぬみより花

花白

むらさきのさうりから毎うりまうてぬきさうりまゆりむさか

花あき花

あ〜んまきとやすくと打枝もせいのちうり及もすく

花

とねのさうりわらわとのたうりらういぬ及もさうらか

花を折人花

えもにけぬすくせ、花もさうらうりまゆり花のちうり及も

折花

うかくにまきちへかく山里のうとれ山のはさ

柳

ゆー柳さーていーいぬあ枝根さーいーいー女はーいー

大坂のーいー軒りのりーくらりけーいーいーいーいー

いとたうきーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

名ホ

いとたうきーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

煙

にほりたーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

根泊

中六

松と生光也サーいーいー船さーいーいーいーいーいーいーいー

未本

ーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

長日

サーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

山

とらふうーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

小流

ちらさひさーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

少女

ちと申しあふをとりいせすほれれとる筆たに世をきりて

箱

甘くも無きもの箱のしどろろ流世もなるとり人せき

つら

かゆまけもはやかくせたるつらく背原もやせりてむ

光

ちとこももきこひびぐりておのれにうたへりてむとくもか

光松

だれれいまりの葉はへむのつらうりすけりて面もな

目

キノ丸

始りうらやむいりてむきおなまのせんかやうりてむせりり

鐘

いりちへとまゝとてゆく凡ちむ西寺の鐘乃こきとせれ

灯

いりちへとまゝとてゆく凡ちむ西寺の鐘乃こきとせれ

川

いりちへとまゝとてゆく凡ちむ西寺の鐘乃こきとせれ

雨晴

けりみまはれ乃南のむとせりてくいのほとがる白雲

船

あけぬきとちやのこころはやみのこころにあらいせとす夜の子

山

かせつはくさるほしと灯はうつくしきとくひの夜はま

山寺

こころありてむよと毎はま草のまこそけつたふきれ寺

まてんれい峯たひくちる言山乃ほくのさまのゆ地ころす

舟

大船のはく船をあやふもわけてよこまは海人の棚

淀船

旅人のいよるまてうと船のときまうへも流のす

中十一

鏡

あいにさすはにともう後つちねとたのの影をうく

書

よの中子つちねさの力ねと画のりてそめは海

羣鶴

ちやうさうまもあむ夜ねむりうすをくれたりせ

收音

実りいねの松乃ともうまていよ由成く水の松と

船

ほあね舟のねつみたしほも陸路一日乃ほとまに

孫人

老ぬれとまことの春もさく花のちる志のまひひく〜

暮春山歌

さうなれてさうさ^日の山も梅もちるまふいせあ〜

暮春草花

かひくも実にならぬさくの春のす名けらるもろはな

山歌三月盡

わらたちへえ母とほの山花のともさうら春のさうま

三月盡前日

あつらへきあつらへて老ぬれまのれり春のひうへ〜

首夜

くれそ〜春のまうら花々々たや〜くも尾ゆ標乃芽

同夜梅樹

けちも枝すひき〜きま〜まはれ口枝凡〜や〜

雪中池魚

あやふね池のミサになべて母よりこいがぼ〜う〜

つるま

とばあ〜かにあ〜く色ゆ〜心息のこき〜初雀公

雀公人伝

ち〜息のたはいつち〜まも子奴ゆ〜う〜人ゆ〜ん

雲

とほほはくまきこはをいそまて中と月とあそぶるかま

夜半

かきこの志母まねも夜半を打まらめ母あつちと人

紅葉

たほろはれおれやれ飛雲うの一むよ船をやくとや

紅葉

けちみきはもすのまくりよゆれ母あそびはけり方よ雪白雲

折竹

やちうくすりもしじま竹の子なすかこうすまよるれば

竹の子

けいこうううほりすまねけれ子こみどられあひだり

雪麦

いてまよりうさる人のうりすま母あそびたをかくこめい

卵む

けつすうらちまよいさまの嵐母あそび乃雪のうらま

松中川

たひすま軒のうへ母ゆく川底をうりなり若も社かま

反松

松ちへも校の下凡とほやく腋まよるま

光根

ほろちうく限きぬへき初のカよりま口の根もころすれ

反茶

たけさくい反のぐーきよきこの志なほくころすれ

い路卯花

たまつくうの花垣のまるとてよいかつてきタるわのた

岸草

まーとほくさせるタのかけつけすーと反も共本立

山松

みやのこと反ゆもあき奉の松一本えがわてあるもあうらま

朝夕三

あらしよりぎんくーまき反此のありけようゆわくらんせ

ゆわくらんせをそのちあわー口のころにようく、ねうまきーま

うちは

ちりくにあつてもゆめのしらゆもえすんも同もきあわらね

光

たごころのひびいてまきうすは、光社おいのころちりくわ

山

山ろとのすゆひねらわにこ乃きーまきと毎々ま社こ乃まけけれ

あま

こころをうたへてのうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

本権

うたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

初秋

けしきよき秋のうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

二日月

あはれよき秋のうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

夕月

あはれよき秋のうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

中ノ十六

竹百目

うたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

雲百目

あはれよき秋のうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

門月

あはれよき秋のうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

雲百目

あはれよき秋のうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

庭月

あはれよき秋のうたはこころをうたへてのうたはこころをうたへてのうた

山吹の月

かづら城たけりくもはにいつれ月もみやこの月となく

春と天月

よびくにさきり一月ともろぬに友のまかもどはるり外

三秋二宮

ね城まのくろくちてみはるるをほゆりやぶげしたる花の糸

夕霧

あまの霞れおきりれて一痛て一まよぬぎや太刀おやの夕霧

三才

野と山とけさたうとうへ誰里も尺の露とそ尺ははきん

薄

まの糸とすくろひてとたすき秋はむくもくもくともる

根はりげかきと生るる花葉まこむくよはらうたるかま

秋乃日のさひき時をさるうたむけるもことまけけ

虫

かよひはる巻む一尺女びこたひりけくなくちりく

信濃

まをよはさねむしそはくおやういてくく声はをい音

桂枝

まちのちになくろき閉細櫃ちうくくまきりす

秋風

たほろよほに思ふさうきやのかくす海なき秋の山風

橋於

旅人のちゆかしのうにさへあなづきくかあはゆい

秋夕

サワリく柔くきこれさやちるる花母及ぬ垣根ニ

小流如葉

ゆくの氷わつたる水尾よはくすなりきて母やるお葉

山移秋興

こららのちうさへに扇ちへさうへて母スの山川

秋采窓

たけうく白よらうら秋花れなくみまきもの足ゆい

芦火

ひまぬたうたうねいもぬあさかみあけくさる時や

瓶花

きくはまがやあうと花瓶よあもたもじけてさせる秋萩

三栗

さつこのうらみなくや社のりれがサリさるる秋の

子又

ちうがまらの一番をたろきてはよなるせこれ沈水産

十月乃とけくサリく雪乃うつまきけしもあぬ霜

冬月

冬月むらたの人のあはれはけし月のソくむらたき

冬月漏田

冬月よまきけしに空けきり満よりあえ雨なるねの月影

冬凡

ふみひらきむらみのけりあはれえちもほろけり凡の月影

冬山存

ほろけりあまき木母あもまきみやまかき冬乃山存と

冬雲

中ノサニ

あはれとた月よあはれなるりきとあ母出へき冬はねの雲

雪

あまきけりあまきけりあ母あもまき春あはれあはれ雪

あまきけりあまきけりあ母あもまき冬乃山とのすき春のあはれ

樹と積雪

あまきけりあまきけりあ母あもまき降雪のあはれあはれ

雪中行治

あまきけりあまきけりあ母あもまき雪のあはれあはれ

山存存

あまきけりあまきけりあ母あもまき山存のあはれあはれ

業
月より月々にあや一月のいそぎの業をやりつゝ



昇徑は中ノ巻終

行巻

中ノ二十三
期

